

消防年報

平成23年版



二宮町消防本部

まえがき

この消防年報は、消防行政の合理的な運営と、消防力の充実強化のための資料とし、あわせて、二宮町の消防現勢と平成22年中及び近年中における火災の実態や、消防、救急そして救助活動などの現状等について、消防関係者はもとより広く町民の方々にも紹介して、消防行政に対するご理解、ご協力をいただくとともに、防火思想と救急知識の高揚を図ることを目的として作成したものです。

本町の消防を知っていただく手がかりとして、また、火災や救急、救助そしてその他の災害予防のために少しでもお役にたてれば幸いです。

平成 23 年 9 月

二宮町消防本部

町民憲章

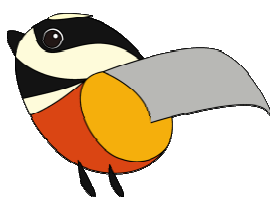
昭和 53 年 7 月 5 日制定

わたくしたちは、美しい自然に恵まれた「長寿の里」二宮の町民であることに誇りと責任をもって、より明るく豊かな町づくりのために町民憲章を定めます。

1. 郷土を愛し、自然をいかすきれいな二宮町をつくりましょう。
2. ふれあいを深め、ことばをかけあうさわやかな二宮町をつくりましょう。
3. きまりを守り、良習をはぐくむ住みよい二宮町をつくりましょう。
4. 幸せを願い、健やかな明るい二宮町をつくりましょう。
5. 教養を高め、文化のかおる豊かな二宮町をつくりましょう。

町の鳥

平成 23 年 1 月 5 日制定

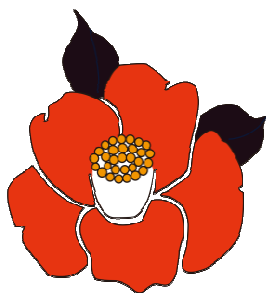


<<ヤマガラ>>

常緑広葉樹林を好み、人懐っこく親しみやすい鳥で町が目指す自然豊かな心のふるさと「里山」のシンボルにふさわしい鳥です。

町の木

昭和 48 年 11 月 3 日制定

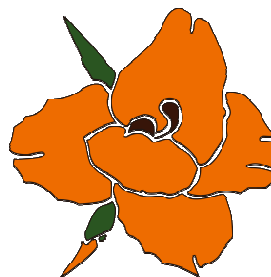


<<つばき>>

古くから武士や高貴な身分の人々にめでられ品種も多くさし木などで簡単にふやせます。町の中にも多く親しみの深い木です。

町の花

昭和 48 年 11 月 3 日制定



<<カンナ>>

明治の末に渡来した花で、生命力が強く、赤や黄と色もあざやかです。他の花の少なくなった頃に咲き出して町の中を明るくします。

目 次

二宮町の概要

◇概要	1
位置と地勢	1
人口の推移	2
◇消防の予算	3
町予算と消防予算との比較	3
消防予算額の内訳	3
消防費の人口比	3
◇消防のあゆみ	4

消防の現況

◇消防力の現況	9
職員の定員と実員	9
消防勢力	9
◇消防の組織	10
組織図	10
歴代消防長・消防団長	10
消防本部の仕事	11
消防署の仕事	11
消防庁舎の概要	11
消防ポンプ車等配置状況	12
消防配置図	13
平成22年度の主要行事	13
◇消防職員	14
消防職員年齢	14
消防職員勤続年数	14
消防職員居住地状況	14
◇消防団	15
消防団員の定員と実員数	15
消防団員の内訳とポンプ台数	15
消防団員勤続年数	15
消防団員年令	16
消防団員の職業構成と就業形態	16
団員報酬	16
消防団受賞歴	16

火災予防

◇火災予防	17
火災予防条例に基づく届け出状況	17
(1)各種届け出状況	17
(2)防火対象物使用開始届出処理状況	18
消防設備等設置届処理状況	19
防火管理者届出状況	20
中高層建築物一覧表	21
用途別建築処理状況	22
◇危険物	23
危険物製造所等の推移	23
類別危険物製造所の状況	23
倍率別危険物製造所等の状況	24
◇査察	25
(1)危険物製造所等の査察実施状況	25
(2)防火対象物査察実施状況(事業所別)	26
(3)消防用設備等の改修検査等の状況	27

消防の活動

◇火災概要	28
火災の発生状況(過去10年間)	28
月別火災発生状況	29
◇消防隊の出場状況(火災・救急出動を除く)	30
月別救助・警戒出場状況	30
月別救急支援・応援火災出場状況	30
◇救急	31
救急出場件数推移	31
月別救急活動状況	32
曜日別救急発生状況	33
時間別救急発生状況	33
事故種別不搬送件数	34
地区別出場件数	34
覚知別、交通事故の道路別出場件数	34
所要時間別出場件数と搬送人員	34
傷病程度と年令別搬送人員	35
応急処置等実施状況	35
応急手当講習会実施状況	36

◇通信	37
通信系統図	37
◇災害出動体制	38
救助出動体制	38
水防（自然災害）出動と体制	39
消防相互応援協定	39
◇消防水利	40
消防水利の現勢調	40
◇気象	41
月別気象状況	41
気象予報等発表状況等調（県内に発表された気象通報回数）	42
過去5年間の気象	42

二宮町の概要

◇ 概要 ◇

二宮町は最初、師長（しなが）国に属する霜見という地名で呼ばれた東国の一山村でしたが、大化の改新（645年）で国、郡、里の制がとり入れられると相模国に合併されました。

また、その頃、級津彦命（しなつひこのみこと）などをまつる川勾神社が、寒川神社の相模国「一の宮」に対し「二の宮」と称され、地域の鎮守として多くの人々から信仰されました。この頃から霜見も含めてこの地方が「二宮」と呼ばれるようになりました。

江戸時代には、幕府直轄地となって、一色、中里、二宮、山西、川勾の五カ村による村制が施行され東海道の間の宿場として賑わいました。

明治22年に市町村制が施行され、五カ村が合併し吾妻村となって、同年東海道本線の開通、明治35年には二宮駅の開設と発展し、昭和10年11月、町制の施行で二宮町となりました。

昭和40年代からは、気候温暖で山と海に囲まれたなだらかな丘陵が住宅地として人気を集め、住宅の造成も急速に進められ年々人口が増加しました。

昭和57年には二宮駅舎が改良され、町の玄関が一新するとともに、道路、公園、体育館など公共施設の建設が進められて来ました。

現在は、公共下水道をはじめとする生活基盤の整備も進めており、よりよい住環境の実現のため新しいまちづくりを推進し、町制施行時半農半漁ののどかな村であった二宮町は、穏やか気候、風土があいまって住みよい湘南の住宅地として発展しながら現在に至っています。

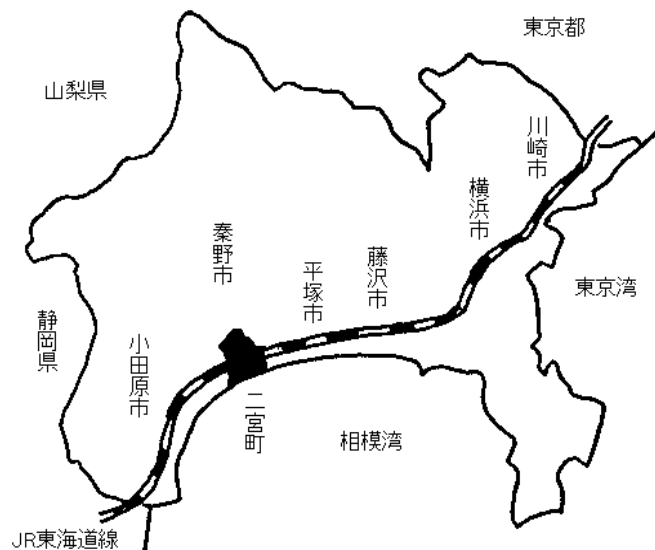
▼ 位置と地勢 ▼

二宮町は、神奈川県南西部に位置し、東経139度15分18秒、北緯35度18分17秒(消防本部)に位置し、東京から約70kmの所にあり、東は大磯町に、北は丹沢連峰を背に中井町に、西は中村川を挟んで小田原市に隣接、南は相模湾に臨んでいます。

町の東西に東海道本線、東海道新幹線、国道1号線、西湘バイパスと小田原厚木バイパスが走り、南北に県道秦野二宮線があって、それぞれ町道と連結し交通至便なところです。

町全体の形状は、おおよそ三角形で南部に広く東西の幅3.3km、北に進むに従って狭く南北に3.8km、総面積は9.08km²で、地形的には山地部と平野部のバランスがとれていて、東西に分裂するかのよう2級河川の葛川が流れています。

気候は、冬暖かく夏涼しく、豊かな自然と新鮮な海の幸・山の幸に加え、純朴な風土と素晴らしい生活環境です。



▼ 人口の推移 ▼

《各年別》

各年4月1日現在

項目 年別	世帯数	人 口			1 世 帯 当 り の 人 口	人口密度 (人/km)	人口指数 (昭和60年 =100)
		計	男	女			
昭和60年	8,433	28,874	14,232	14,642	3.42	3,223	100.0
平成2年	9,850	29,415	14,409	15,009	2.99	3,283	101.9
平成7年	10,375	30,887	15,280	15,607	2.98	3,447	107.0
平成12年	10,935	31,099	15,287	15,812	2.84	3,471	107.7
平成17年	11,028	30,320	14,752	15,568	2.75	3,384	105.0
平成18年	11,028	30,078	14,588	15,490	2.73	3,357	104.2
平成19年	11,113	29,832	14,460	15,372	2.68	3,285	103.3
平成20年	11,143	29,591	14,339	15,252	2.66	3,259	102.5
平成21年	11,274	29,578	14,317	15,261	2.62	3,257	102.4
平成22年	11,388	29,633	14,375	15,258	2.60	3,264	102.6
平成23年	11,475	29,514	14,294	15,220	2.57	3,294	102.2

《地区別》

各年4月1日現在

地区別 項目	平成23年		平成22年		平成21年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
合 計	29,514	11,475	29,633	11,388	29,578	11,274
一 色	894	271	913	278	920	288
百合が丘	4,069	1,782	4,144	1,773	4,194	1,787
中 里	3,271	1,238	3,270	1,237	3,227	1,211
富士見が丘	3,272	1,291	3,293	1,281	3,286	1,260
二 宮	8,195	3,281	8,170	3,233	8,192	3,219
松 根	468	158	474	156	474	157
山 西	6,335	2,437	6,320	2,412	6,216	2,341
川 匂	648	247	670	250	666	244
緑 が 丘	2,362	770	2,379	768	2,403	767

☆ 平成17年度国勢調査結果を基礎数値としています。

◇ 消防の予算 ◇

▼ 町予算と消防予算との比較 ▼

平成23年度の一般会計当初予算は、7,635,000 千円（前年度対比20.6%減）で、消防費の当初予算は424,420千円（前年度対比 15.1%増で）一般会計当初予算に占める割合は、5.6%となっています。

区 分 \ 年 度	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
一 般 会 計 予 算	7,635,000 千円	9,610,000 千円	7,213,000 千円
消 防 予 算 額	424,420 千円	368,706 千円	360,668 千円
比 率	5.6%	3.8%	5.0%

▼ 消防予算額の内訳 ▼

内 訳	金 額	構 成	前 年 度 比
消 防 費	424,420 千円	100.0%	55,714 千円
常 備 消 防 費	393,606 千円	92.7%	46,957 千円
非 常 備 消 防 費	30,814 千円	7.3%	8,757 千円

▼ 消防費の人口比 ▼

当 初 予 算 額	1 世 帯 当 たり	人 口 1 人 当 たり
一 般 会 計 予 算 額	7,635,000 千円	665,359 円
消 防 予 算 額	424,420 千円	36,986 円

◇ 消防のあゆみ ◇

明治 12年	一色村に消防器具を備えた消防体制が整備される。
明治 17年	一色村に私設消防組が誕生。
明治 25年	中里地区に私設消防組が誕生し、その後二宮、梅沢、山西の各地区に消防組誕生。
明治 37年	公設消防組を設置。（一色、中里、二宮、山西の各消防組）
大正 12年 9月	関東大震災発生。圧死21名、焼死4名、重傷者26名、全焼6戸、全壊406戸、半壊364戸、罹災人員4,716人。
昭和 6年	二宮消防組の手押ポンプを廃し、ガソリンポンプに切替。
昭和 10年 10月	葛川氾濫による水害発生。流失6戸、半壊4戸、床上浸水137戸、床下浸水155戸、道路欠損39ヶ所、橋流失17ヶ所、罹災人員1,639人。
昭和 12年 9月	各地区消防組を統一、二宮消防組となる。
昭和 14年 4月	二宮町警防団となる。（警防団員431名）
昭和 15年 1月	南口駅前大火発生。全焼69戸、半焼4戸、焼失棟数106棟、罹災人員374名。
	1月 第1分団に消防ポンプ自動車を配置。
昭和 16年 7月	葛川氾濫による水害発生。流失9戸、床上浸水124戸、罹災人員 2,940人。
昭和 23年 4月	消防組織法が施行され、自治体消防として消防団を設置。（4ヶ分団、消防団員258名）、二宮町消防団条例、規則、服務規程等を制定。
昭和 24年 6月	二宮町火災予防条例を制定。
昭和 27年 5月	第1回全国消防大会開かれる。
昭和 29年 4月	第2分団区域を2区域に分割、第2、第3分団とし、従来の第3、第4分団をそれぞれ、第4、第5分団と名称を変えて5個分団に組織替えし、1個分団20名編成となる。（団員数103名）
	11月 第3分団消防車庫を新築、同分団に消防ポンプ自動車、第4、第5分団に小型動力ポンプと積載車を配備。
昭和 30年 7月	県営水道が開通、消火栓を設置。
	10月 第2分団に消防ポンプ自動車を配備。
昭和 32年 8月	二宮町消防団員等公務災害補償条例・規則を制定。 第7回神奈川県消防操法大会に第2分団消防ポンプ自動車が出場。
昭和 33年 3月	(財)日本消防協会より表彰、竿頭綬を受ける。
	7月 二宮町消防団条例・規則を改定。
昭和 34年 11月	第1分団の消防ポンプ自動車を更新。
昭和 35年 8月	第10回神奈川県消防操法大会に第1分団消防ポンプ自動車が出場。
昭和 36年 9月	電話自動化により火災専用電話（119番）を役場に設置。
	12月 第4、第5分団の小型動力ポンプ更新。
昭和 37年 3月	消防庁長官より表彰、竿頭綬を受ける。
	7月 二宮町火災予防条例を改正。
昭和 38年 9月	第13回県消防操法大会に第5分団小型動力ポンプが出場。
昭和 39年 3月	第2分団消防車庫を新築。

- 昭和 39年 3月 二宮町消防団員退職報償金制度が確立され、市町村の支給責任の共済制度を設ける。
二宮町非常勤消防団員に係る退職報償金支給条例を制定。
- 昭和 41年 1月 第4分団消防車庫を新築。
10月 第16回県消防操法大会に第4分団小型動力ポンプが出場。
12月 第4分団に消防ポンプ自動車を配置。(BS-I型)
- 昭和 42年 1月 第5分団消防車庫を新築。
12月 第5分団に消防ポンプ自動車を配置。(BS-I型)
- 昭和 43年 3月 第1分団消防車庫を新築。
3月 自治体消防発足20周年。
(財)日本消防協会より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
4月 二宮町非常勤消防団員退職報償金支給条例施行規則及び二宮町消防団員服務規程を制定。
8月 二宮町火災予防条例施行規則を制定。
10月 第1回二宮町消防操法大会開催。
- 昭和 44年 10月 第2回二宮町消防操法大会開催。
第19回県消防操法大会に第3分団消防ポンプ自動車が会場。
- 昭和 45年 3月 消防庁長官より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
12月 第3分団消防ポンプ自動車(水槽付)を更新。
- 昭和 46年 3月 二宮町課等設置条例の一部を改正し従来の総務課消防係より、4月1日付をもって消防課の設置を議決。
4月 県消防学校教官山崎勝也氏の派遣を受け、1年間の創設業務と職員の教養指導を行う。
6月 二宮町消防職員の特殊勤務手当に関する条例の制定。
8月 神奈川県より救急車(トヨタMS66VY)寄贈。
8月 第21回県消防操法大会に第2分団消防ポンプ自動車が会場。
9月 二宮町救急業務規則、二宮町消防職員の勤務時間等規則を制定。
救急業務開始(6日)。山崎消防課長以下職員15名。
11月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈。(BD-I型)
12月 第2分団消防ポンプ自動車を更新。(BS-I型)
二宮町消防本部及び消防署の設置等に関する条例、二宮町消防賞じゅつ金条例・規則の制定。
- 昭和 47年 1月 二宮町消防本部組織規則のほか、常備消防として必要な規則、規程を制定。
2月 二宮町消防本部・消防署を設置。(職員20名 定員28名)
消防署、水槽付消防ポンプ自動車を配置。(水-I B型)
8月 第22回県消防操法大会に第1分団消防ポンプ自動車が会場。
- 昭和 48年 1月 屈折はしご付消防ポンプ自動車を購入。(15m級)
3月 第3分団消防車庫を新築。
4月 消防職員定数33名となる。

- 昭和 48年 8月 第23回県消防操法大会に消防署が屈折はしご付消防ポンプ自動車基準操法で出場。
- 11月 自治体消防発足25周年記念式を行う。
- 昭和 49年 2月 消防署に台車付小型動力ポンプ配置。
- 4月 消防署に緊急工作車（小型動力ポンプ積載）を配置。
- 8月 第24回県消防操法大会に第5分団消防ポンプ自動車が出場。
- 9月 第1分団消防ポンプ自動車を更新。（BS-I型）
- 昭和 50年 9月 消防署車庫増築。
- 昭和 51年 4月 消防本部組織を一部変更、警防係を分割し予防係を新設。
- 8月 第26回県消防操法大会に第4分団消防ポンプ自動車が出場。
- 9月 藤田観光(株)より救急車の寄贈。
- 昭和 52年 9月 消防団条例改正審議始まる。
- 昭和 53年 3月 自治体消防発足30周年記念式を行う。
- 3月 消防団条例改正、議会で可決。
- 4月 消防団員103名から78名に減員。
- 8月 第28回県消防操法大会に第3分団が出場し、最優秀賞。
- 10月 全国消防操法大会に二宮町消防団として第3分団が出場。
- 昭和 54年 7月 消防署指令車更新。
- 昭和 55年 8月 第30回県消防操法大会に第2分団が出場。
- 昭和 56年 2月 二宮町防災備蓄倉庫落成。
- 11月 第4分団小型動力ポンプ更新。
- 昭和 57年 2月 (財)日本消防協会特別表彰「まとい」受賞。
- 3月 二宮町消防本部・消防署創設10周年及び日本消防協会特別表彰「まとい」受賞の記念式典を行う。
- 7月 第1・第2・第3分団小型動力ポンプを配備。
従来からの第4・第5分団を含み全分団配備する。
- 8月 第32回県消防操法大会に第1分団が出場。
- 11月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。
- 昭和 58年 6月 第5分団車庫移転、新築。
- 8月 第33回県消防操法大会に消防署が応用操法に出場。
- 10月 第4分団消防ポンプ自動車更新。（CD-I型）
- 昭和 59年 8月 第34回県消防操法大会に第5分団が出場。
- 昭和 60年 3月 消防署救急車更新。
- 10月 第5分団消防ポンプ自動車更新。（CD-I型）
- 昭和 62年 3月 (財)日本消防協会より表彰第2回目の竿頭綬受ける。
- 9月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈。（BD-I型）
- 11月 第3分団消防ポンプ自動車更新。（CD-I型）
- 昭和 63年 7月 消防署指令車更新。
- 8月 第36回県消防操法大会に第4分団が出場し、優秀賞。
(財)日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車寄贈。
- 平成 元年 10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。（CD-I型）

- 平成 2年 7月 消防署救急車更新。
- 平成 3年 8月 消防署資機材搬送車を購入。
9月 第1分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 4年 4月 消防職員定数34名となる。防災担当職員1名町より派遣。
7月 第38回県消防操法大会に第3分団が出場。
9月 はしご付消防ポンプ自動車購入。(15m級)
- 平成 5年 4月 消防職員定数36名となる。
- 平成 6年 4月 消防職員定数37名となる。
11月 救急救命士1名配置。
- 平成 7年 1月 阪神・淡路大震災に救助隊を応援派遣。
11月 高規格救急自動車を購入。救急救命士1名配置(全2名)
- 平成 8年 4月 消防職員定数38名となる。
7月 第40回県消防操法大会に第2分団が出場。
12月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。(水-IB型)
- 平成 9年 4月 防災係、総務部総務課へ移行。消防職員1名派遣。
消防本部組織を一部変更、消防課を新設、1課3係となる。
救急救命士1名配置。(全3名)
11月 救急救命士1名配置。(全4名)
- 平成10年 3月 庁舎増設部完成、緊急情報システム更新。(I型)
10月 庁舎既存部耐震補強工事完成。
11月 第4分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
12月 (財)日本消防協会へ第4分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
第4・第5分団小型動力ポンプ更新。
- 平成11年 9月 第2・4分団車庫耐震補強工事完了。
11月 救急救命士1名配置。(全5名)
- 平成12年 7月 第42回県消防操法大会に第1分団が出場。
8月 消防団無線を整備。(団本部・分団車両・携帯無線機)
12月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成13年 1月 (財)日本消防協会へ第5分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
3月 高規格救急自動車を日本自動車工業会から寄贈される。
3月 高度救命資器材等を整備。
- 平成14年 2月 消防署消防ポンプ自動車更新。(CD-I型・災害対応特殊仕様)
- 平成15年 10月 第3分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
11月 救急救命士1名配置。(全6名)
12月 (財)日本消防協会へ第3分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成16年 7月 第44回県消防操法大会に第5分団が出場。消防署積載車更新。
- 平成17年 4月 消防職員定数46名となる。消防職員2名採用する。
10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
12月 (財)日本消防協会へ第2分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成18年 4月 消防職員3名採用する。
平塚市消防本部と職員交流実施、1名派遣。
救急救命士1名配置。(全7名)
12月 消防署救助工作車購入。(II型)

- 平成 19年 4月 消防職員3名採用する。
消防職員1名を総務部（防災安全係）へ派遣。
- 8月 第1分団消防ポンプ自動車更新。（CD-I型）
- 平成 20年 2月 (財)日本消防協会から広報車寄贈。
- 4月 消防職員4名採用する。
消防職員2名を総務部（防災安全係）へ派遣。
救急救命士1名配置。（全7名）
- 7月 第46回県消防操法大会に第4分団が出場。
- 平成 21年 2月 第1分団消防車庫を更新。
- 3月 高規格救急自動車を日本自動車工業会から寄贈される。
高度救命資器材等を整備。
- 4月 組織・機構改革により、班長制の導入。
消防職員3名採用する。
消防職員3名を町民生活部（防災安全課）へ派遣。
救急救命士1名配置。（全8名）
- 7月 消防署指令車購入。
- 平成 22年 4月 消防職員3名を町民生活部（防災安全課）へ派遣。
救急救命士1名配置。（全9名）
- 9月 (財)日本外交協会へ消防署旧はしご付消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 23年 3月 東日本大震災に伴い、緊急消防援助隊（計2隊・13名）を派遣。
- 4月 消防職員2名採用する。
消防職員2名を町民生活部（防災安全課）へ派遣。
消防職員1名を都市経済部（都市整備課）へ派遣。
救急救命士1名配置。（全10名）

消防の現況

◇ 消防力の現況 ◇

▼ 職員の定員と実員 ▼

(平成23年4月1日現在)

階級 区分	計	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防 士	事務 員	派遣 員
定員	46	階級別定員なし							
実員	45	1	6	9	8	8	9	1	3

▼ 消防勢力 ▼

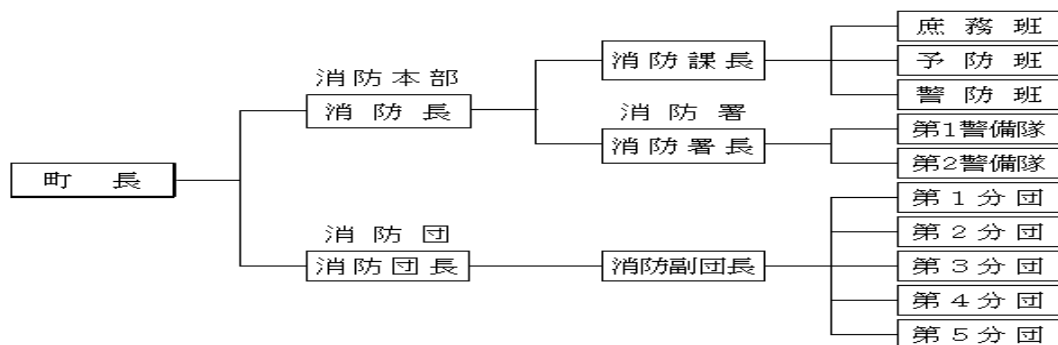
(平成23年4月1日現在)

種別 区分	消防職員			消防団員			消防ポンプ車		
現況	45人			78人			7台		
基準単位	消防職員1名当り			消防団員1名当り			消防ポンプ車1台当り		
区分	面積 (k m ²)	人口 (人)	世帯	面積 (k m ²)	人口 (人)	世帯	面積 (k m ²)	人口 (人)	世帯
算定数値	0.20	655.9	255.0	0.12	378.4	147.1	1.30	4,216.3	1,639.3

◇ 消防の組織 ◇

▼組織図▼

(平成23年4月1日現在)



▼歴代消防長▼

代別	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間	摘要
初代	脇 哲	昭和47年 2月 1日	昭和49年11月30日	2年10月	助役兼任
2	柳川 賢二	“ 49年12月 1日	“ 50年 1月31日	2月	町長兼任
3	池田 準一	“ 50年 2月 1日	“ 56年 7月31日	6年 5月	助役兼任
4	渡辺 正太郎	“ 56年 8月 1日	“ 59年 6月30日	2年11月	
5	岩本 公夫	“ 59年 7月 1日	“ 61年 3月31日	1年 9月	
6	加藤 孝次	“ 61年 4月 1日	平成 2年 3月31日	4年	
7	橘川 吉一	平成 2年 4月 1日	“ 2年12月31日	9月	
8	川口 喜宏	“ 3年 1月 1日	“ 8年 3月31日	5年 3月	
9	露木 豊	“ 8年 4月 1日	“ 8年 7月 8日	3月	
10	西山 喜介	“ 8年 7月 9日	“ 9年 3月31日	9月	助役兼任
11	脇 純治	“ 9年 4月 1日	“ 10年12月31日	1年 9月	
12	古谷 一夫	“ 11年 1月 1日	“ 17年 3月31日	6年 3月	
13	菊地 元	“ 17年 4月 1日	“ 20年 3月31日	3年	
14	原 幸男	“ 20年 4月 1日	“ 23年 3月31日	3年	
15	加藤 義則	“ 23年 4月 1日		現 在	

▼歴代消防団長▼

代別	氏名	就任年月日	退任年月日	在任期間
初代	西山 喜八郎	昭和23年4月1日	昭和25年 3月31日	2年
2	片岡 彦十郎	“ 25年4月1日	“ 27年 3月31日	2年
3	小沢 新治	“ 27年4月1日	“ 31年 3月31日	4年
4	添田 靖一	“ 31年4月1日	“ 33年 3月31日	2年
5	西山 信次	“ 33年4月1日	“ 35年 3月31日	2年
6	野谷 伸造	“ 35年4月1日	“ 37年 3月31日	2年
7	原 兼太郎	“ 37年4月1日	“ 39年 3月31日	2年
8	柳川 賢二	“ 39年4月1日	“ 43年 3月31日	4年
9	原 久雄	“ 43年4月1日	“ 49年 3月31日	6年
10	渡辺 正太郎	“ 49年4月1日	“ 53年 3月31日	4年
11	西山 昇	“ 53年4月1日	“ 57年 3月31日	4年
12	脇 政雄	“ 57年4月1日	“ 61年 3月31日	4年
13	露木 昭治	“ 61年4月1日	平成 4年 3月31日	6年
14	古木 定男	平成 4年4月1日	“ 6年 3月31日	2年
15	簗島 保男	“ 6年4月1日	“ 12年 3月31日	6年
16	二見 泰弘	“ 12年4月1日	“ 16年 3月31日	4年
17	柳川 駅司	“ 16年4月1日	“ 20年 3月31日	4年
18	杉崎 一夫	“ 20年4月1日		現 在

▼ 消防本部の仕事 ▼

消防本部は、市町村の消防事務を統括する機関で、人事・予算・消防の企画運営などの事務を行い、次のように各班に分かれて仕事を受け持っています。

《庶務班》

予算の編成・執行の調整、文書の送受・保存、例規の制定・改廃、職・団員の人事・公務災害・福利厚生、庁舎の維持管理、消防団の庶務、その他、他の班に属さないもの。

《予防班》

火災予防計画・指導、火災予防広報・啓発、防火管理、消防用設備の設置指導、危険物の貯蔵取扱い指導・規制、火気取扱い指導、建築物等の許認可の同意、その他、火災予防に関すること。

《警防班》

消防警備計画、消防相互応援協定、消防力整備計画、消防水利施設の整備・管理等、消防職員・消防団員の訓練、資機材・車両の管理運用、水防、応急手当等の普及、その他、警防に関すること。

▼ 消防署の仕事 ▼

消防署は、火災の予防・警戒・鎮圧・救急救助などの活動の第1線部隊としての仕事をしており、主な仕事は次のようになっています。

《警備隊》

災害の警戒、防ぎよ活動、救急・救助活動、火災の原因・損害調査、消防気象観測、地理・水利調査、車両・通信機器の運用・点検整備、災害危険箇所の調査、その他、災害に関すること。

▼ 消防庁舎の概要 ▼

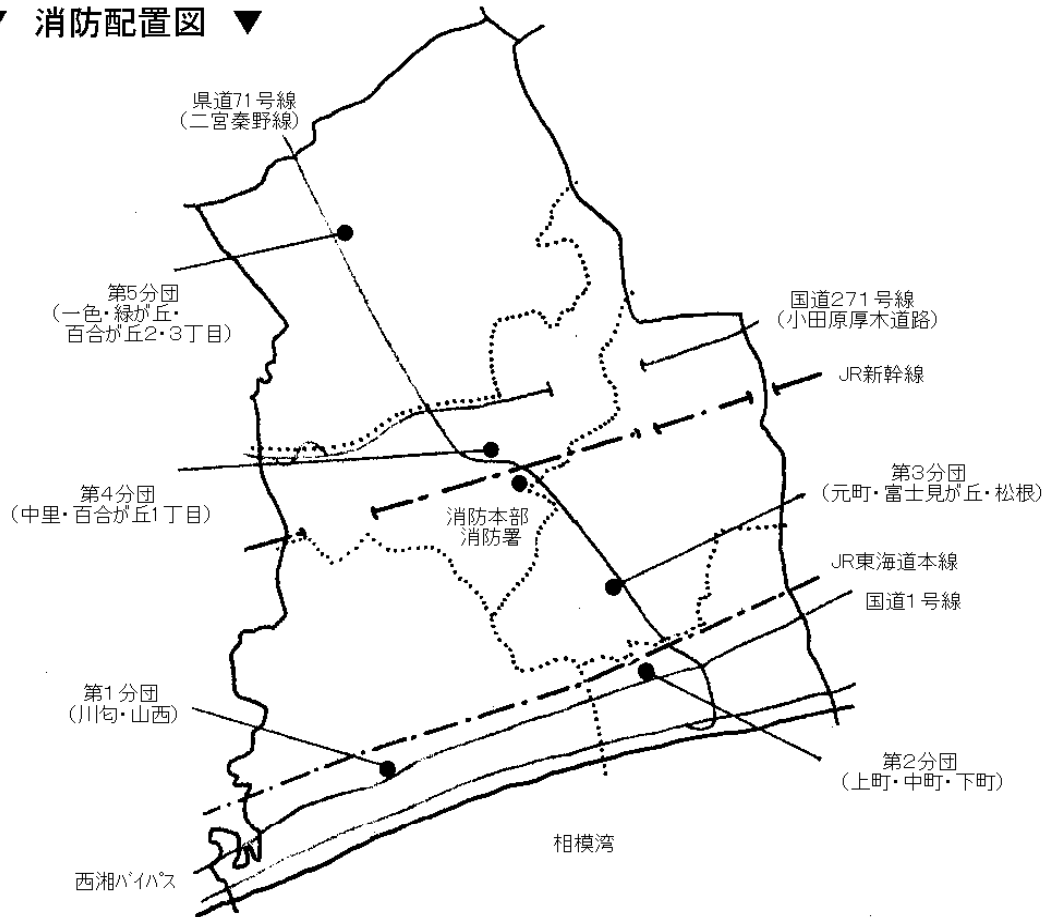
所在地	二宮町中里711-1番地			
構造	①	鉄筋コンクリート造2階建		(北棟)
	②	鉄骨造2階建		(南棟)
建築面積	①	360.24	m ²	
	②	345.12	m ²	計 705.36 m ²
延面積	①	676.14	m ²	
	②	536.95	m ²	計 1,213.09 m ²
敷地面積		1,394.17	m ²	
竣工	①	昭和47年1月31日		
	②	平成10年9月30日		

▼ 消防ポンプ車等配置状況 ▼

(平成23年4月1日現在)

種 別	社名 年式	ポンプ 製作所	ポンプ 検 定	規 格			定員	総重量 kg	燃料	総排気量 L	購 入 年 月	
				長さ m	幅 m	高さ m						
消 防 署	水槽付消防 ポンプ自動車	日野 H 8	モリタ	A 2	6.92	2.20	2.70	7	7,825	軽油	7,960	H 8.12
	普通消防 ポンプ自動車	三菱 H14	モリタ	A 2	5.45	1.88	2.85	5	4,955	軽油	5,240	H14. 2
	救急車 1 (高規格)	日産 H21	—	—	5.64	1.90	2.47	7	3,125	ガソリン	3,490	H21. 3
	救急車 2 (高規格)	イスゞ H13	—	—	5.69	2.07	2.74	8	5,180	軽油	4,980	H13. 3
	救助工作車	日野 H18	—	—	7.48	2.30	3.20	6	9,780	軽油	6,400	H18.12
	指 令 車	トヨタ H21	—	—	4.63	1.69	1.86	7	1,885	ガソリン	1,990	H21. 7
	積 載 車	日産H16	—	—	4.67	1.69	2.20	6	3,270	ガソリン	1,990	H16. 7
	広 報 車	ダイハツH20	—	—	3.39	1.47	1.92	4	1,460	ガソリン	650	寄 贈
	小 型 動 力 ポンプ	シハウラ フット	芝浦機械 富士モト	B 3	0.74	0.54	0.73	—	93	ガソリン	486	S63. 7
消 防 団	第一 普通消防 ポンプ自動車	イスゞ H 19	モリタ	A 2	5.83	1.88	2.45	9	4,435	軽油	2,990	H19. 8
	分団 小型動力 ポンプ	フット H13	富士 モト	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H13. 9
	第二 普通消防 ポンプ自動車	イスゞ H 17	モリタ	A 2	5.65	1.88	2.45	9	4,075	軽油	4,770	H17.10
	分団 小型動力 ポンプ	フット H13	富士 モト	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H13. 9
	第三 普通消防 ポンプ自動車	イスゞ H15	モリタ	A 2	5.65	1.88	2.45	9	4,085	軽油	4,770	H15.10
	分団 小型動力 ポンプ	フット H13	富士 モト	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H13. 9
	第四 普通消防 ポンプ自動車	イスゞ H10	モリタ	A 2	5.48	1.88	2.40	9	3,975	軽油	4,570	H10.11
	分団 小型動力 ポンプ	フット H12	富士 モト	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H11.10
	第五 普通消防 ポンプ自動車	イスゞ H12	モリタ	A 2	5.48	1.88	2.45	9	4,335	軽油	4,570	H12.12
	分団 小型動力 ポンプ	フット H11	富士 モト	B 3	0.66	0.58	0.72	—	88	ガソリン	635	H11.10

▼ 消防配置図 ▼



▼ 平成22年度の主要行事 ▼

- 4月10日 新入団員消防訓練指導
 ↳ (延べ4日間、普通救命講習含む)
- 4月18日
- 5月16日 消防署、消防団消防ポンプ性能検査
- 6月 9日 県内消防救助技術指導会に出場
- 9月11日 消防団員体力錬成大会
- 10月19日 神奈川県消防職団員消防慰霊祭に出席
- 11月 7日 にのみやふるさとまつり (消防本部・消防団参加)
 ・ 消防ふれあいコーナー (消防車両展示・消火体験)
- 11月 9日
 ↳ 秋の火災予防運動
- 11月15日
- 12月25日 歳末火災特別警戒実施
 ↳ (消防職団員特別巡視・28日)
- 12月31日
- 1月10日 消防出初式 (山西小学校校庭)
- 3月 1日 春の火災予防運動
 ↳ (消防署・消防団合同訓練、パンフレット配布)
- 3月 7日

◇ 消防職員 ◇

▼ 消防職員の年齢 ▼

(平成23年4月1日現在)

階級 区分	計	消 防 司令長	消 防 司令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	事 務 吏 員	派 遣 職 員
人員合計	45	1	6	9	8	8	9	1	3
18～19才	0								
20～25才	8						8		
26～30才	8					7	1		
31～35才	1					1			
36～40才	8				7				1
41～45才	4			2	1				1
46～50才	2		1	1					
51～55才	6		3	1				1	1
56～60才	8	1	2	5					
平均年齢	39.7	59.0	54.2	52.8	38.3	27.9	23.0	54.0	45.3

▼ 消防職員の勤続年数 ▼

(平成23年4月1日現在)

階級 区分	計	消 防 司令長	消 防 司令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	事 務 吏 員	派 遣 職 員
計	45	1	6	9	8	8	9	1	3
0～4年	12					2	9	1	
5～9年	6					6			
10～14年	1				1				
15～19年	8				6				2
20～24年	3			2	1				
25～29年	0								
30～34年	2		1	1					
35年以上	13	1	5	6					1
平均年数	18.4	39.0	36.0	33.4	16.9	5.5	2.1	0.0	24.0

▼ 消防職員居住地状況 ▼

(平成23年4月1日現在)

居 住 地 名	町 内									町 外							合 計	
	一 色	緑 が 丘	中 里	富 士 見 が 丘	二 宮	山 西	百 合 が 丘	松 根	小 計	大 磯 町	中 井 町	寒 川 町	小 田 原 市	秦 野 市	平 塚 市	藤 沢 市		小 計
人員	2	1	3	1	9	6	1	0	23	3	1	1	6	7	3	1	22	45

◇ 消防団 ◇

▼ 消防団員の定員と実員数 ▼

(平成23年4月1日現在)

消防団数	分団数	階級	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	班 長	団 員
		人員							
1	5	定 員	78	1	2	5	5	30	35
		実 員	78	1	2	5	5	29	36

▼ 消防団員の内訳とポンプ台数 ▼

(平成23年4月1日現在)

階級・ ポンプ 所属	消 防 団 員 数							ポ ン プ 台 数		
	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	班 長	団 員	計	消防ポンプ 自 動 車	小型動力 ポ ン プ
計	78	1	2	5	5	29	36	10	5	5
本 部	3	1	2							
第 1 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 2 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 3 分 団	15			1	1	5	8	2	1	1
第 4 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1
第 5 分 団	15			1	1	6	7	2	1	1

▼ 消防団員勤続年数 ▼

(平成23年4月1日現在)

階級 年 数	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	班 長	団 員
合 計	78	1	2	5	5	29	36
1 年 未 満	10						10
1 年 ～ 4 年	36					10	26
5 年 ～ 9 年	23			2	4	17	
10 年 ～ 19 年	9	1	2	3	1	2	
20 年 ～ 29 年	0						
平均年数	4.4	18.0	11.0	10.4	8.6	5.5	1.4

▼ 消防団員年令 ▼

(平成23年4月1日現在)

階級 年 数	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	班 長	団 員
合 計	78	1	2	5	5	29	36
21才～25才							
26才～30才	5					1	4
31才～35才	12					6	6
36才～40才	29			1	1	10	17
41才～45才	24			3	4	10	7
46才～50才	4			1		1	2
51才～55才	2		1			1	
56才 以上	2	1	1				
平 均 年 齢	39.6	56.0	55.0	43.4	43.0	39.0	37.8

▼ 消防団員の職業構成と就業形態 ▼

(平成23年4月1日現在)

計	職 業 構 成													計	就 業 形 態							
	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	熱 電 力 業	運 輸 業	飲 食 業	卸 売 業	金 融 業	不 動 産 業	サ ー ビ ス 業		公 務 員	さ れ な い も の	そ の 他	被 用 者	役 員	被 用 者 の あ る 業 主	被 用 者 の な い 業 主	家 族 従 事 者
78	1				9	23	3	1	11	6	1	6	1	16	78	54	6	2	3	13	0	0

▼ 団員報酬 ▼

(平成23年4月1日現在)

階級 区 分	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	班 長	団 員
年 額	135,000円	90,000円	49,000円	40,000円	33,000円	33,000円
警戒・訓練等	1,500円	1,500円	1,500円	1,500円	1,500円	1,500円
災 害 出 動	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円

▼ 消防団受賞歴 ▼

団体

受章年度	表 彰 区 分	受章年度	表 彰 区 分
昭和33年度	日本消防協会竿頭綬	昭和57年度	日本消防協会特別表彰「まとい」
昭和37年度	消防庁竿頭綬	昭和62年度	日本消防協会竿頭綬 (再受賞)
昭和43年度	日本消防協会表彰旗	平成17年度	神奈川県消防協会竿頭綬
昭和45年度	消防庁表彰旗		
昭和53年度	神奈川県消防操法大会最優秀賞		

個人

受 章 者	表 彰 区 分	受 章 日
原 久雄	木 杯	昭和62年11月 3日
露木 昭治	勲七等瑞宝章	平成 7年11月 7日
西山 昇	勲六等瑞宝章	平成10年 4月29日
柳川 駅司	消 防 庁 長 官	平成18年 3月 3日

火災予防

◇ 火災予防 ◇

▼ 火災予防条例に基づく届出状況 ▼

(1) 各種届出状況

年 度	平成 2 0 年	平成 2 1 年	平成 2 2 年
各種届出			
合 計	30	29	33
炉 設 備			
厨 房 設 備			
温 風 暖 房 機 設 備			
ボ イ ラ ー 設 備	2	1	1
給 湯 湯 沸 設 備			
乾 燥 設 備			
サ ウ ナ 設 備			
ヒートポンプ冷暖房機設備			
火花を生ずる設備			
放電加工機設備			
変 電 設 備	1		2
発 電 設 備			
蓄 電 池 設 備	1		
ネオン管灯設備			
火災と紛らわしい行為等	19	19	23
煙火の打上げ、仕掛け等	4	5	5
催物の開催等	2		1
指 定 洞 道 等			
少量危険物貯蔵・取扱	1	4	1
指定可燃物貯蔵・取扱			

(2) 防火対象物使用開始届出処理状況

防火対象物項目		年 中	平成20年	平成21年	平成22年
		合 計	17	7	13
1項	イ	映 画 館			
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場		1	
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 等			
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗			
3項	イ	料 理 店 等			4
	ロ	飲 食 店 等			
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	2	2	
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル			
	ロ	共 同 住 宅	6	2	1
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所			
	ロ	福 社 施 設 等	4		
	ニ	福 社 施 設 等		1	2
	ハ	幼 稚 園 等			1
7項		学 校			
8項		図 書 館 等			
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10項		駅 舎	1		
11項		神 社 等			
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場			
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等			
13項	イ	駐 車 場 等			
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等			
14項		倉 庫 等			
15項		事 務 所 等	1	1	5
16項	イ	特 定 複 合 用 途	3		
	ロ	複 合 用 途			
16項の2		地 下 街			
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階			
17項		重 要 文 化 財 等			
18項		ア ー ケ ー ド			

※ 6項ロに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるもの。

※ 6項ハに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるものを除く。

▼ 消防用設備等設置届処理状況 ▼

防火対象物項目		年 中	平成20年	平成21年	平成22年
		合 計	20	7	12
1項	イ	映 画 館			
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場		1	
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 等			
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗			
3項	イ	料 理 店 等			1
	ロ	飲 食 店 等			
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	3	2	
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル			
	ロ	共 同 住 宅	6	2	1
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所	1		
	ロ	福 祉 施 設 等	1		2
	ハ	福 祉 施 設 等		1	2
	ニ	幼 稚 園 等			2
7項		学 校			
8項		図 書 館 等			
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10項		駅 舎	1		
11項		神 社 等			
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場			
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等			
13項	イ	駐 車 場 等			
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等			
14項		倉 庫 等			
15項		事 務 所 等	4	1	4
16項	イ	特 定 複 合 用 途	4		
	ロ	複 合 用 途			
16項の2		地 下 街			
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階			
17項		重 要 文 化 財 等			
18項		ア ー ケ ー ド			

※ 6項ロに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるもの。

※ 6項ハに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるものを除く。

▼ 防火管理者届出状況 ▼

平成23年4月1日現在

防火対象物項目		対象物数・届出数	消防法17条 対 象 物	防火管理者 届出済対象物
合 計			303	157
1項	イ	映 画 館		
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場	35	29
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等		
	ロ	遊 技 場 等		
	ハ	性 風 俗 関 連 等		
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗		
3項	イ	料 理 店 等		
	ロ	飲 食 店 等	14	12
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト	25	15
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル	3	1
	ロ	共 同 住 宅	73	35
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所	16	2
	ロ	福 社 施 設 等	6	6
	ハ	福 社 施 設 等	12	11
	ニ	幼 稚 園 等	5	5
7項		学 校	7	7
8項		図 書 館 等		
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場		
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場		
10項		駅 舎		
11項		神 社 等	14	2
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場	18	3
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等		
13項	イ	駐 車 場 等		
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等		
14項		倉 庫 等	2	
15項		事 務 所 等	32	15
16項	イ	特 定 複 合 用 途	33	11
	ロ	複 合 用 途	8	3
16項の2		地 下 街		
16項の3		16 項 2 以 外 の 地 階		
17項		重 要 文 化 財 等		
18項		ア ー ケ ー ド		

※ 6項ロに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるもの。

※ 6項ハに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるものを除く。

▼ 中高層建築物一覧表 ▼

平成23年4月1日現在

防火対象物項目		階 数		3階・4階	5階	6階	7階	8階
		合	計					
				98	31	3	0	1
1項	イ	映 画 館						
	ロ	公 会 堂 ・ 集 会 場		3				
2項	イ	キ ャ バ レ ー 等						
	ロ	遊 技 場 等						
	ハ	性 風 俗 関 連 等						
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等 個 室 型 店 舗						
3項	イ	料 理 店 等						
	ロ	飲 食 店 等		2				
4項		店 舗 ・ マ ー ケ ッ ト		5				
5項	イ	旅 館 ・ ホ テ ル		1				
	ロ	共 同 住 宅		14	29	3		1
6項	イ	病 院 ・ 診 療 所		3				
	ロ	福 祉 施 設 等		2				
	ハ	福 祉 施 設 等		4				
	ニ	幼 稚 園 等						
7項		学 校		12	1			
8項		図 書 館 等						
9項	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場						
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場						
10項		駅 舎						
11項		神 社 等						
12項	イ	工 場 ・ 作 業 場		1				
	ロ	映 画 ・ ス タ ジ オ 等						
13項	イ	駐 車 場 等						
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫 等						
14項		倉 庫 等		2				
15項		事 務 所 等		16				
16項	イ	特 定 複 合 用 途		22				
	ロ	複 合 用 途		11	1			
17項		重 要 文 化 財 等						

※ 6項ロに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるもの

※ 6項ハに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるものを除く。

▼ 用途別建築処理状況 ▼

用途別			年・件数・面積		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
			件数	面積㎡	件数	面積㎡	件数	面積㎡		
合 計			111	28,908.79	102	21,108.97	96	24,909.34		
1項	イ	映 画 館								
	ロ	公会堂・集会場	1	1,307.74			1	967.54		
2項	イ	キャバレー等								
	ロ	遊技場等								
	ハ	性風俗関連等								
	ニ	カラオケボックス等 個室型店舗								
3項	イ	料理店等								
	ロ	飲食店等					1	375.28		
4項		店舗・マーケット	1	712.00	1	74.75	1	259.68		
5項	イ	旅館・ホテル								
	ロ	共同住宅	1	586.11			2	568.10		
6項	イ	病院・診療所								
	ロ	福祉施設等					1	2,477.19		
	ハ	福祉施設等			2	1,291.98	1	2,602.30		
	ニ	幼稚園等								
7項		学 校								
8項		図 書 館 等								
9項	イ	蒸気・熱気浴場								
	ロ	イ以外の公衆浴場								
10項		駅 舎								
11項		神 社 等								
12項	イ	工場・作業場	1	1,700.72	1	1,700.72	1	489.08		
	ロ	映画・スタジオ等								
13項	イ	駐 車 場 等	1	62.77						
	ロ	飛行機の格納庫等								
14項		倉 庫 等								
15項		事 務 所 等			3	889.86	4	2,957.36		
16項	イ	特定複合用途								
	ロ	複 合 用 途					1	209.30		
17項		重要文化財等								
18項		ア ン ケ ー ト								
専 用 住 宅			106	24,539.45	95	17,151.66	83	14,003.51		

◇ 危険物 ◇

▼ 危険物製造所等の推移 ▼

区 分		年 度			
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	
総 数		0	22	21	
製 造 所					
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	1	1	1	
	屋外タンク貯蔵所	1	1	1	
	屋内タンク貯蔵所				
	地下タンク貯蔵所	10	10	9	
	簡易タンク貯蔵所				
	移動タンク貯蔵所	1	1	1	
	屋 外 貯 蔵 所				
取 扱 所	給油取扱所	営 業	2	2	2
		自 家			
	販売取扱所	第1種			
		第2種			
一 般 取 扱 所	7	7	7		

▼ 類別危険物製造所の状況 ▼

区 分		施 設 数						
		合計 (件)	第1類 (L)	第2類 (L)	第3類 (L)	第4類 (L)	第5類 (L)	第6類 (L)
製造所等の別								
合 計		21				235,420		
製 造 所								
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	1				2,400		
	屋外タンク貯蔵所	1				1,900		
	屋内タンク貯蔵所							
	地下タンク貯蔵所	9				41,900		
	簡易タンク貯蔵所							
	移動タンク貯蔵所	1				2,000		
	屋 外 貯 蔵 所							
取 扱 所	給油取扱所	営 業	2			140,000		
		自 家						
	販売取扱所	第1種						
		第2種						
一 般 取 扱 所	7				47,220			

▼ 倍率別危険物製造所等の状況 ▼

平成23年4月現在

倍率別 製造所等の別		合計	五倍以下	五倍を超え 十倍以下	十倍を超え 五十倍以下	五十倍を超え 百倍以下	百倍を超え 百五十倍以下	百五十倍を超え 二百倍以下	二百倍を超え 五千倍以下
合計		21	11	5	2	0	1	1	1
製造所									
貯蔵所	屋内貯蔵所	1	1						
	屋外タンク貯蔵所	1	1						
	屋内タンク貯蔵所								
	地下タンク貯蔵所	9	5	1	2		1		
	簡易タンク貯蔵所								
	移動タンク貯蔵所	1	1						
	屋外貯蔵所								
取扱所	給油取扱所	営業	2					1	1
		自家							
	販売取扱所	第1種							
		第2種							
	一般取扱所	7	3	4					

区分 製造所等の別		許可		完成		水張 水圧 検査	廃止届	仮使用	仮貯蔵 ・ 取扱
		設置	変更	設置	変更				
合計		9	0	0	0	8	1	0	0
製造所						8			
貯蔵所	屋内貯蔵所								
	屋外タンク貯蔵所								
	屋内タンク貯蔵所								
	地下タンク貯蔵所						1		
	簡易タンク貯蔵所								
	移動タンク貯蔵所								
	屋外貯蔵所								
取扱所	給油取扱所	営業							
		自家							
	販売取扱所	第1種							
		第2種							
	一般取扱所								

◇ 査 察 ◇

(1) 危険物製造所等の査察実施状況

平成22年中

区分	実施件数 製造所等の総数	査察実施数	口頭 指導	指件 導数	是正件数
合計	22	21			
製造所	0	0			
屋内貯蔵所	1	1			
屋外タンク貯蔵所	1	1			
屋内タンク貯蔵所	0	0			
地下タンク貯蔵所	10	9	1		
簡易タンク貯蔵所	0	0			
移動タンク貯蔵所	1	1			
屋外貯蔵所	0	0			
給油取扱所	2	2			
第1種販売取扱所	0	0			
第2種販売取扱所	0	0			
一般取扱所	7	7			

(2) 防火対象物査察実施状況(事業所別)

平成22年中

防火対象物項目		年 度	防火対象物数	査察実施数	指導件数	是正件数
合 計			632	9	8	8
1項	イ	映 画 館				
	ロ	公会堂・集会場	39			
2項	イ	キャバレー等				
	ロ	遊技場等				
	ハ	性風俗関連等				
	ニ	カラオケボックス等 個室型店舗				
3項	イ	料理店等				
	ロ	飲食店等	18			
4項		店舗・マーケット	33			
5項	イ	旅館・ホテル	5			
	ロ	共同住宅	229			
6項	イ	病院・診療所	18			
	ロ	福祉施設等	6			
	ハ	福祉施設等	16			
	ニ	幼稚園等	5			
7項		学 校	8			
8項		図 書 館 等				
9項	イ	蒸気・熱気浴場				
	ロ	イ以外の公衆浴場				
10項		駅 舎				
11項		神 社 等	19			
12項	イ	工場・作業場	52			
	ロ	映画・スタジオ等				
13項	イ	駐 車 場 等				
	ロ	飛行機の格納庫等				
14項		倉 庫 等	11			
15項		事 務 所 等	63	5	4	4
16項	イ	特定複合用途	72	3	3	3
	ロ	複 合 用 途	38	1	1	1

※ 共同住宅（5項ロ）に関しては、消火器のみの設置が大半のため、査察は実施していません。

※ 6項ロに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるもの。

※ 6項ハに関しては、主として要介護状態にある者を入居させるものを除く。

(3) 消防用設備等の改修検査等の状況

平成22年中

件 数 消防用設備等	着工届・設置届等	検 査
合 計	27	27
消 火 器	7	7
屋 内 消 火 栓	1	1
ス プ リ ン ク ラ ー 設 備	2	2
水 噴 霧 消 火 設 備		
屋 外 消 火 栓 設 備		
自 動 火 災 報 知 設 備	4	4
ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 器		
漏 電 火 災 警 報 器	1	1
消 防 機 関 へ 通 報 す る 火 災 報 知 設 備	1	1
非 常 警 報 設 備	2	2
避 難 器 具	1	1
誘 導 灯	8	8
連 結 散 水 栓 設 備		
連 結 送 水 管 設 備		
非 常 電 源		

消防の活動

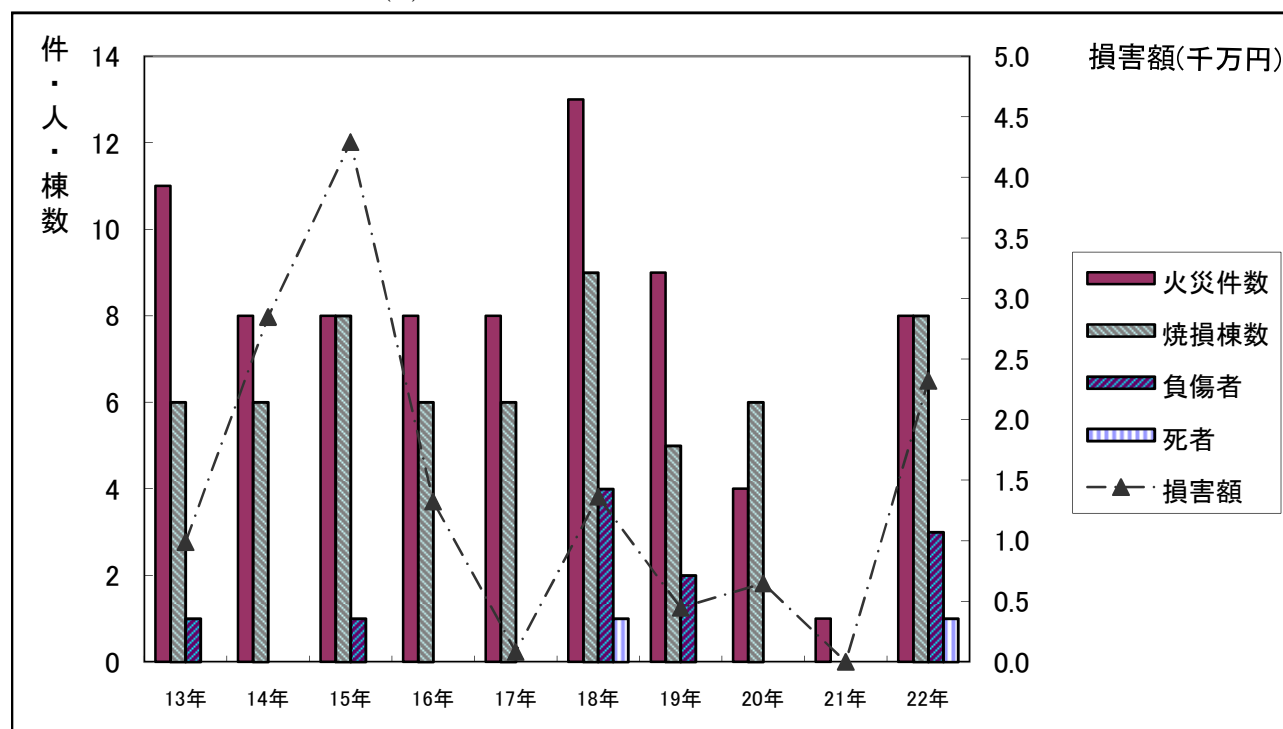
◇ 火災概要 ◇

▼火災の発生状況(過去10年間)▼

平成22年中の火災発生状況は建物火災8件(全焼3件、部分焼3件、ぼや2件)でした。ここ数年火災は減少傾向ですが、この年は増加しており、屋内配線やテーブルタップなどの電気器具が出火原因として目立ちます。全国的に見ると、火災による高齢者の死者が増加傾向にあり、当町でも高齢者の死者が1名出ております。

区分 年中	火災種別						死 者	負 傷 者	り 災 世 帯	り 災 人 員	損 害 額 合 計 (千円)	損 害 額		焼 損 棟 数	損 面 積 建 物 焼 (㎡)
	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	航 空 機 他						建 物 火 災	建 物 以 外 火 災		
平成13年	11	6		3		2	1	2	6	9,887	9,506	381	6	109	
〃 14年	8	6		2				4	15	28,478	28,111	367	6	146(1)	
〃 15年	8	6				2	1	8	22	42,927	42,927		9	498	
〃 16年	8	5	1			2		4	14	13,248	13,248		6	54(5)	
〃 17年	8	6		1		1		3	6	826	447	379	6	12(3)	
〃 18年	13	9				4	1	4	6	13,641	13,635	6	9	349(2)	
〃 19年	9	5		2		2	2	3	7	4,461	4,421	40	5	69(1)	
〃 20年	4	4						6	13	7,861	6,191	1,670	6	132(60)	
〃 21年	1			1						6		6			
〃 22年	8	8					1	3	5	18	23,204	23,204	6	454(17)	

※建物焼損面積の()は表面積



▼月別火災発生状況▼

(平成22年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
火災種別	建物		8	1	1	3		1		1			1		
	林野														
	車両														
	その他														
原因	失火		2		1	1									
	放火・疑い														
	不明		4	1		2		1							
大別	その他		2							1			1		
	死者		1			1									
死傷者	負傷者		3	1						2					
	建物														
火災	焼損	火元							1		1				
		全焼	3	1											
		半焼													
	棟類	部分焼	3		1	2									
		ぼや	2			1								1	
		全焼													
	棟焼	半焼													
		部分焼													
		ぼや													
	数り	全損	2	1							1				
半損															
小損		3			3										
帯り	計	5	1		3					1					
	災者数	18	9		7					2					
焼損面積	全焼	全焼	448	269				64		115					
		半焼													
	部分焼	部分焼	22		15	7									
		ぼや	1											1	
計	471	269	15	7		64		115				1			
林野焼損面積(a)															
車両(台数)															
その他焼損面積(m ²)															
損害見積額	家屋	建物	19,112	7,496	77	317		1,539		9,183			500		
		収容物	4,092	1,752	170	195				1,975					
	林野														
	車両														
	その他														
計(千円)			23,204	9,248	247	512		1,539		11,158			500		

◇ 消防隊の出場状況(火災、救急出動は除く) ◇

▼ 月別救助出場状況 ▼

(平成22年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
救助事例	交通事故		1	1											
	救助者		5	5											
	その他		4		1	2					1				
	救助者		1								1				
	合計		5	1	1	2					1				
傷病者情報	救助者計		6	5							1				
	死亡														
	重症														
	中等症		1								1				
	軽症		5	5											
合計		6	5							1					

▼ 月別警戒出場状況

(平成22年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種別	火災警戒		7				1	1	2			1		1	1
	危険排除		7				1	1	1			2		1	1
	その他		12	1	2	1			1	1	1	1	1		3
	合計		26	1	2	1	2	2	4	1	1	4	1	2	5

▼ 月別救急支援出場状況 ▼

(平成22年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種別	Drへり支援		9	4				2	1			2			
	交通事故支援		13	1			1		2	3	2		1	1	2
	CPA搬送支援		36	4	2	3	3	3		3	3	1	5	5	4
	その他		114	12	8	10	6	4	9	7	15	8	14	12	9
	合計		172	21	10	13	10	9	12	13	20	11	20	18	15

▼ 月別応援火災出場状況 ▼

(平成22年中)

区分		月	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種別	大磯町内		5	1			1	1		2					
	小田原市内		1										1		
	中井管内														
	平塚管内														
	合計		6	1			1	1		2			1		

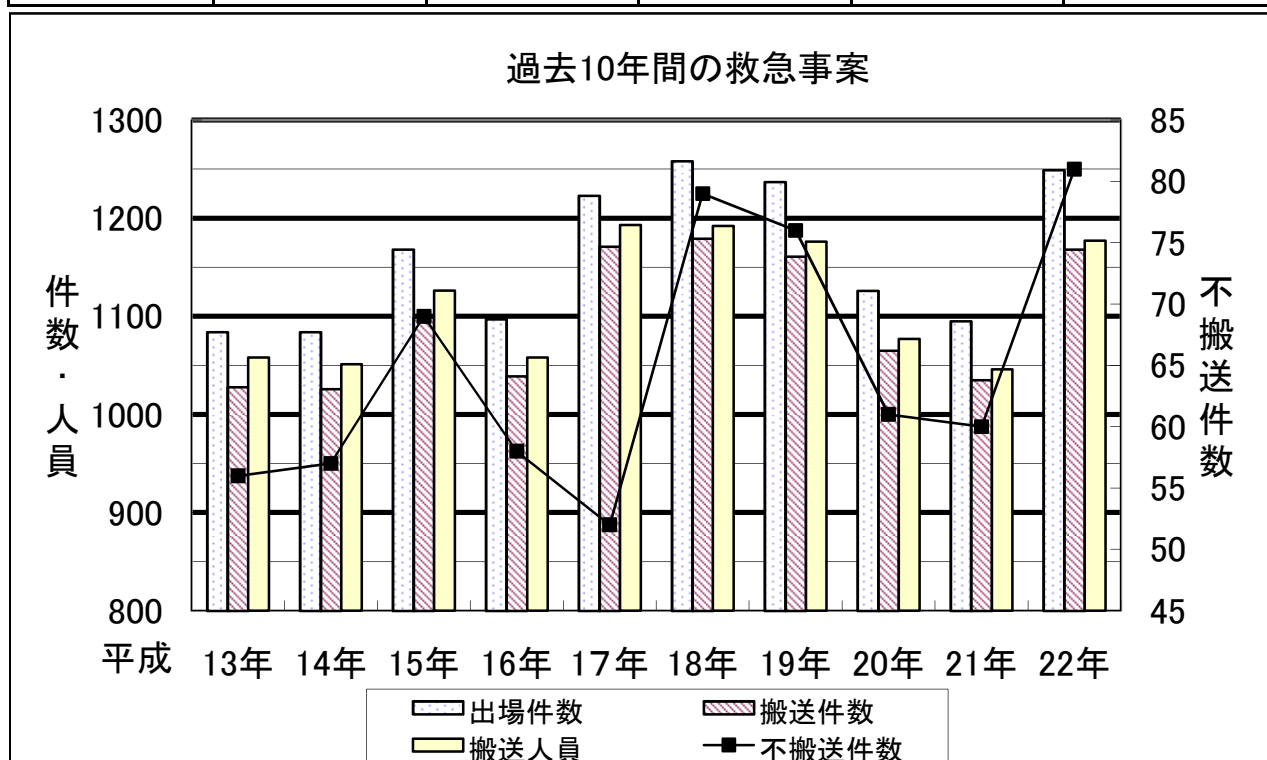
◇ 救 急 ◇

▼救急出場件数推移▼

平成22年中の救急出場件数は1,249件で1日平均3.42件です。ここ数年減少傾向が見られましたが、この年は過去10年で2番目に多い出場件数でした。特に高齢者、成人の救急搬送が増加しています。覚知から病院までの平均収容所要時間は35分であり、病院収容までに120分以上かかった出場は3件でした。

1台目の救急車の出場中に救急要請が重なり、2台目の救急車が出場した件数は137件でした。尚、救急車2台とも出場中に救急要請があり、隣接消防に応援出場の要請を依頼した件数は10件です。救急搬送した患者の傷病程度別で見ると軽症の方が50%、中等症41%、重症7%でした。なお、救急隊が現場に到着したときすでに心肺停止状態の方は約5%でした。

年	区分	出場件数	搬送件数	搬送人員	不搬送件数	一日平均
平成	13年	1,084	1,028	1,058	56	2.97
〃	14年	1,084	1,026	1,051	57	2.97
〃	15年	1,168	1,099	1,126	69	3.20
〃	16年	1,097	1,039	1,058	58	3.01
〃	17年	1,223	1,171	1,193	52	3.35
〃	18年	1,258	1,179	1,192	79	3.45
〃	19年	1,237	1,161	1,176	76	3.39
〃	20年	1,126	1,065	1,077	61	3.08
〃	21年	1,095	1,035	1,046	60	3.00
〃	22年	1,249	1,168	1,177	81	3.42



▼月別救急活動状況▼

(平成22年中)

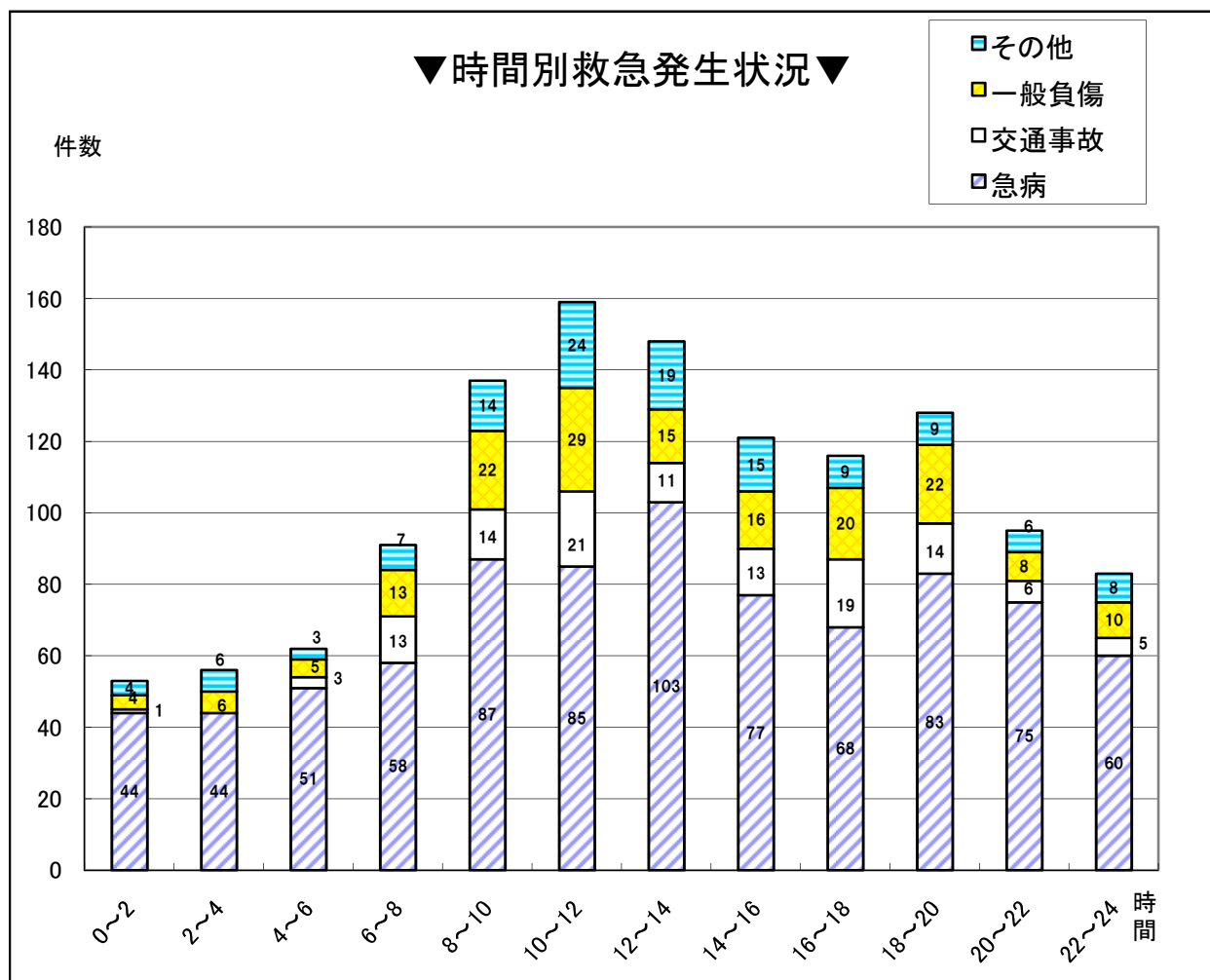
事故種別 区分		合 計	一 日 平 均	火 災 事 故	自 然 災 害	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害 事 故	自 損 行 為	急 病	そ の 他
合 計	出場件数	1,249	3.4	3			120	13	10	170	5	18	835	75
	搬送人員	1,177		2			120	13	11	165	5	14	798	49
	不搬送件数	81		1			7			5		4	36	28
1 月	出場件数	132	4.3	1			7	2		18	1	2	91	10
	搬送人員	124		1			8	2		17	1	2	85	8
	不搬送件数	10					1			1			6	2
2 月	出場件数	101	3.6				9		1	8	2	2	74	5
	搬送人員	94					7		1	8	2	2	71	3
	不搬送件数	8					2						3	3
3 月	出場件数	80	2.6	1			5	1	1	9		1	52	10
	搬送人員	71					5	1	1	8			51	5
	不搬送件数	9		1						1		1	1	5
4 月	出場件数	96	3.2				9	2		9	1	2	68	5
	搬送人員	94					10	2		9	1	1	66	5
	不搬送件数	3										1	2	
5 月	出場件数	91	2.9				12	1	1	13		2	53	9
	搬送人員	86					13	1	1	12		2	49	8
	不搬送件数	7					1			1			4	1
6 月	出場件数	106	3.5				15		1	13		1	72	4
	搬送人員	103					15		1	13		1	70	3
	不搬送件数	3											2	1
7 月	出場件数	111	3.6	1			14	4		14			75	3
	搬送人員	102		1			13	4		13			69	2
	不搬送件数	9					1			1			6	1
8 月	出場件数	128	4.1				8	1	1	27		1	82	8
	搬送人員	117					7	1	2	27		1	76	3
	不搬送件数	12					1						5	6
9 月	出場件数	94	3.1				8	1		13			67	5
	搬送人員	91					7	1		13			66	4
	不搬送件数	3					1						1	1
10 月	出場件数	100	3.2				6		5	13		3	70	3
	搬送人員	98					7		5	13		2	69	2
	不搬送件数	3										1	1	1
11 月	出場件数	93	3.1				12	1		17		2	57	4
	搬送人員	90					13	1		16		2	55	3
	不搬送件数	4								1			2	1
12 月	出場件数	117	3.8				15			16	1	2	74	9
	搬送人員	107					15			16	1	1	71	3
	不搬送件数	10										1	3	6

▼曜日別救急発生状況▼

(平成22年中)

曜日別 事故別	合計	火災事故	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害事故	自損行為	急病	その他
合計	1,249	3			120	13	10	170	5	18	835	75
月	184				17	1		23		2	128	13
火	164				19	3	1	15	1	1	113	11
水	157	1			15			24	1		106	10
木	167				23	1	1	15		4	117	6
金	193				14	3	1	35	1	7	118	14
土	199	1			21	3	3	31	2	3	129	6
日	185	1			11	2	4	27		1	124	15

▼時間別救急発生状況▼



▼事故種別不搬送件数▼

(平成22年中)

種別 \ 理由	合計	緊急性 し	傷病者 し	拒否	酩酊	死亡	現場 処置	誤いた ず報ら	そ の 他
合計	81	13	13	22	7	21		3	2
急病	36	3	5	12		15		1	
交通事故	7		2	4					1
一般負傷	5	2		3					
その他	33	8	6	3	7	6		2	1

▼地区別出場件数▼

(平成22年中)

地区	合計	二宮	山西	中里	百合が丘	一色	富士見が丘	緑が丘	川匂	松根	その他
件数	1,249	441	206	145	142	90	108	38	46	10	23

▼覚知別、交通事故の道路別出場件数▼

《覚知別発生状況》

(平成22年中)

種別	合計	専用(119)	加入電話	駆け込み	携帯(転送)	シルバー	その他
件数	1,249	999	185	9	20	15	21

《交通事故の道路別出場状況》

(平成22年中)

道路別	合計	国道 1号線	県道	小田原 厚木道路	西湘 バイパス	その他 (町道含む)
件数	120	34	19	9	10	48

▼所要時間別出場件数と搬送人員▼

(平成22年中)

区分 事故種別	現場到着所要時間						車内収容時間					病院収容時間					
	合計 件数	0分 3分	3分 5分	5分 10分	10分 20分	20分 以上	搬 送 人 合計	0分 10分	10分 15分	15分 20分	20分 以上	搬 送 人 合計	0分 20分	20分 30分	30分 60分	60分 120分	120分 以上
計	1,249	69	505	657	15	3	1,177	386	430	273	88	1,177	26	466	665	17	3
急病	835	45	335	443	9	3	798	222	291	215	70	798	15	321	446	13	3
交通事故	120	7	48	63	2	0	120	61	50	8	1	120	3	50	66	1	0
一般負傷	170	9	72	87	2	0	165	65	57	32	11	165	5	63	96	1	0
その他	124	8	50	64	2	0	94	38	32	18	6	94	3	32	57	2	0

※ 現場到着に時間を要している事案は、救急出場中の要請及び町外(自動車専用道路の応援等)に出場していたためです。

▼傷病程度と年令別搬送人員▼

(平成22年中)

区分 事故種別	年 令 区 分						傷 病 程 度				
	合 計	新 生 児	乳 幼 児	少 年	成 人	高 齢 者	合 計	死 亡	重 症	中 等 症	軽 症
合 計	1,177	3	59	38	381	696	1,177	29	81	480	587
急 病	798	1	40	14	226	517	798	22	61	356	359
交 通 事 故	120		2	8	79	31	120	1	1	33	85
一 般 負 傷	165	1	16	9	28	111	165	2	4	49	110
そ の 他	94	1	1	7	48	37	94	4	15	42	33

その他は、火災・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・自然災害事故等含む。

「年齢内訳」

乳幼児＝生後29日～満7才未満
少年＝満7才～満18才未満
成人＝満18才～65才未満
高齢者＝満65才以上

「傷病内訳」

程 度	内 容	男 性	女 性
死 亡	初診時に死亡確認	17	12
重 症	入院3週間以上	33	48
中等症	入院を要し重症に至らない	263	217
軽 症	入院が必要としない	306	281
合 計		619	558

▼応急処置等実施状況▼

(平成22年中)

区分		事故種別	急 病	交通事故	一般負傷	その他	計	
応急処置等対象人員			789	118	166	90	1,163	
応 急 処 置 合 計			3,105	452	606	382	4,545	
処 置 件 数	止血(止血帯等)		11		17	7	35	
	固定(副子等・頸部・全身)		7	71	39	12	129	
	人工呼吸		27		3	6	36	
	心マッサージ		27		3	6	36	
	心肺蘇生		27		3	6	36	
	酸素吸入		270	10	17	29	326	
	気道確保		48	1	5	11	65	
		経鼻エアウェイ		22		3	3	28
		咽頭鏡・鉗子等		2		1		3
		特定行為(LM等・気管内挿管)		20		1	2	23
		保 温		41	6	10	4	61
		被 覆		5	21	41	9	76
		在宅療法継続		7		1	1	9
		ショックパンツによる血圧保持						
		除細動(包括的)		3			1	4
		静脈路確保(特定行為)		13		1	3	17
			薬 剤 投 与		9	1	2	12
	その他の応急処置		48	2	3	9	62	
	血圧測定		743	118	152	83	1,096	
	聴診器による聴取		658	95	118	70	941	
	血中酸素飽和度の測定		749	117	161	82	1,109	
	心 電 図		368	11	26	36	441	

▼応急手当普及講習会実施状況▼

二宮町では、平成7年から応急手当等の講習会を実施しており、平成23年4月1日現在で普通救命講習修了者が3,009名となりました。自動体外式除細動器（AED）も町内の公共施設をはじめとし、一般企業や事業所等にも設置されるようになりました。平成22年度の普通救命講習は28回285名が修了され、再度講習に参加された方は145名でした。救命率を向上させるため多くの方が講習に参加していただきました。

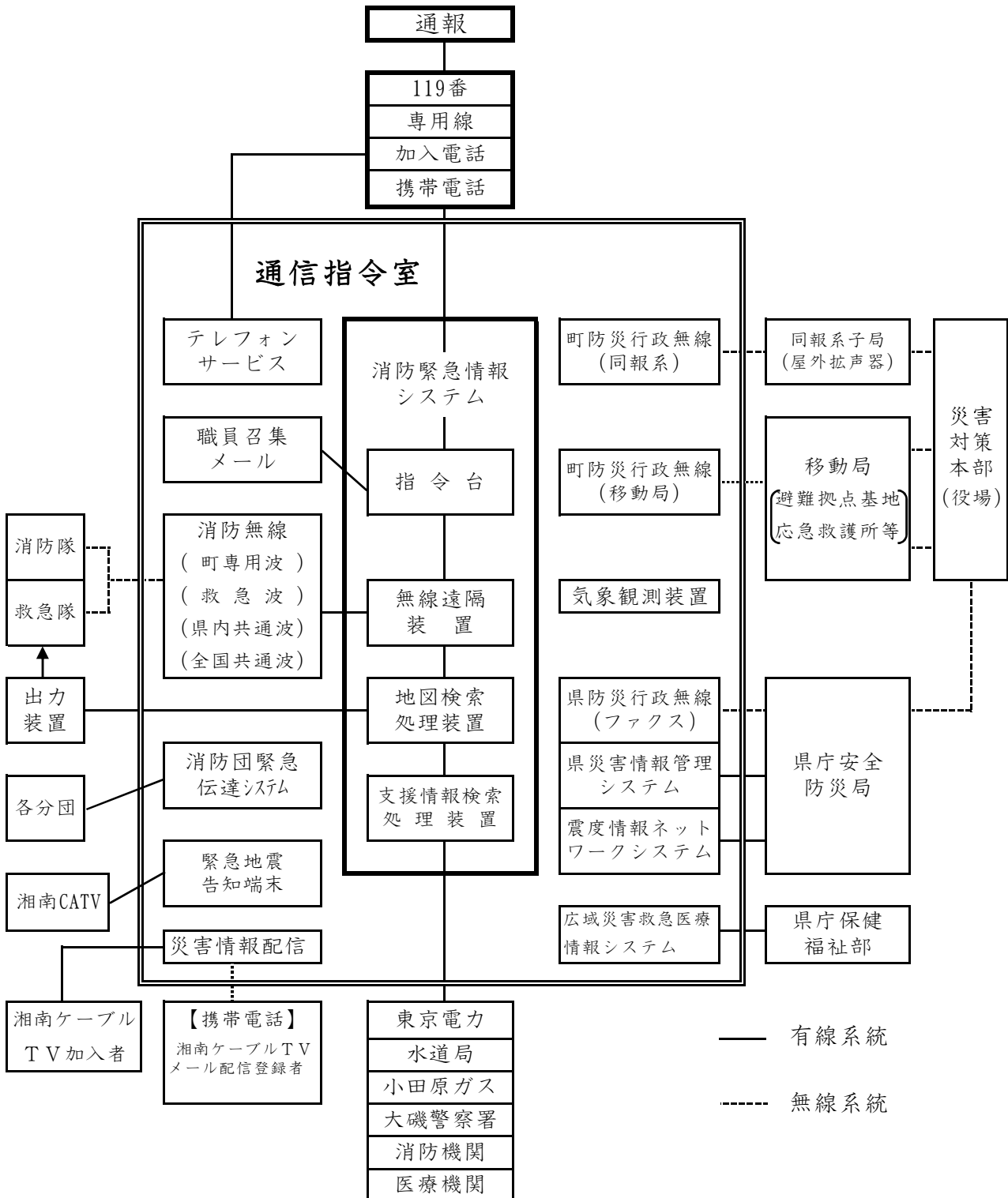
(平成22年度)

番号	講習月日	講習会区分	受講者区分	受講者	修了者	再講習者
1	4月9日	普通救命講習	町職員	10	10	
2	4月10,13日	普通救命講習	消防団員	43		43
3	4月18日	普通救命講習	消防団員	5	4	1
4	4月25日	普通救命講習	少林寺拳法湘南二宮支部	15	14	
5	6月4日	普通救命講習	介護施設関係者	23	17	6
6	6月14日	普通救命講習	福祉関係者・一般参加	16	10	6
7	6月21日	普通救命講習	町職員・体育施設関係者	13	2	11
8	6月23日	普通救命講習	町職員・体育施設関係者	6		6
9	6月26日	普通救命講習	体育施設関係者	10	9	1
10	6月27日	普通救命講習	町内自治会	12	6	6
11	6月30日	普通救命講習	町内団体関係者	16	6	10
12	7月7日	普通救命講習	ボランティア団体	4	1	3
13	7月23日	普通救命講習	教育委員会関係者	19	6	13
14	7月28日	普通救命講習	二宮町危険物安全協会	6	5	1
15	8月1日	普通救命講習	二宮町危険物安全協会	10	10	
16	8月5日	普通救命講習	教育委員会	18	5	13
17	8月9日	普通救命講習	二宮西中学校	18	18	
18	8月10日	普通救命講習	二宮西中学校	17	16	1
19	8月11日	普通救命講習	二宮西中学校	19	18	1
20	8月17日	その他講習	日赤二宮町分区	28		
21	8月18日	普通救命講習	教育委員会	14	6	8
22	8月19日	普通救命講習	二宮西中学校	14	14	
23	8月20日	普通救命講習	二宮西中学校	19	18	1
24	8月27日	普通救命講習	二宮西中学校	8	7	1
25	9月16日	普通救命講習	保険予防課	12	11	1
26	9月26日	普通救命講習	県消防協会湘南支部消防訓練	41	33	8
27	10月29日	普通救命講習	はなの杜	17	17	
28	H23 1月19,24日	その他の講習	生涯学習課、体育施設嘱託員	14		
29	2月6日	普通救命講習	一般募集	12	9	3
30	2月19日	普通救命講習	湘南農業共同組合	14	13	1
		合計		473	285	145

◇ 通信 ◇

通信指令室は消防活動の要であり、指令台を中心に火災報知専用電話（119番）のほか数多くの通信情報システムが配備され、災害出動指令や消防関係通信業務に24時間体制で職員が従事しています。

▼通信系統図▼



◇ 災害出動体制 ◇

災害通報は、火災報知専用電話（119番）等を通じて、すべて消防署通信指令室で受信します。通報を受けた指令室は、隊員に一斉出動を指令、状況により車両・資機材を選択した消防隊等が、2～3隊で災害現場に急行します。また、災害の状況に応じ消防団へ出動指令し、その後加入電話にて各関係機関に連絡します。

消防本部・消防署

水槽付消防ポンプ自動車	普通消防ポンプ自動車	救助工作車	積載車	高規格救急自動車	高規格救急自動車	指令車	広報車	可搬ポンプ×2
-------------	------------	-------	-----	----------	----------	-----	-----	---------

消防団

第1分団	第2分団	第3分団	第4分団	第5分団
普通消防ポンプ車 可搬ポンプ	普通消防ポンプ車 可搬ポンプ	普通消防ポンプ車 可搬ポンプ	普通消防ポンプ車 可搬ポンプ	普通消防ポンプ車 可搬ポンプ

▼ 救助出動体制 ▼

火災・交通事故・労働災害及び一般負傷等、複雑化する都市災害から人命を守るため、平成18年に救助工作車を配備し、あらゆる災害に対処できるように努めています。

救助資機材等

資機材名	数量	資機材名	数量	資機材名	数量
クレーン2.9t（車載式）	1	潜水器具一式	3	耐電衣（一式）	2
ウインチ（車載式）	1	救命胴衣	4	化学防護服（一式）	5
照明装置（車載式）	1	救命浮環	1	救助帯・安全帯	7
超高圧消火装置	1	山岳救助器具一式	1	インパルス銃	1
超高圧油圧装置	1	送排風機	1	フォグガン	1
大型油圧機材一式	1	エンジンカッター	1	簡易画像探索器（ホーカム）	1
削岩機	1	チェーンソー	1	マルチガス測定器	1
発動発電機	1	単梯子（カギ付）	1	防毒マスク	5
空気式救助マット	2	三連梯子	3	携帯警報機（スーパース）	5
酸素切断機	1	バスケット型担架	2	空気呼吸器	13

▼水防(自然災害)出動と体制 ▼

二宮町は、比較的大きな河川がなく、過去に水害による大規模な被害を受けたことはありません。しかし、今後集中豪雨や台風の際には河川の氾濫や崖崩れ等の被害が発生する恐れがあります。このため、降雨時は雨量の把握に努め、早期に警戒体制を強化しています。

(平成22年中)

気象状況	回数	活動内容
大雨洪水警報	14	情報収集等及び町内巡回
台風接近上陸	3	情報収集等及び町内巡回

水防資材(消防本部管理分)

(平成23年4月1日現在)

品名	数量	品名	数量	品名	数量
一輪車	3台	スコップ	40丁	土のう袋	9,000枚
水中ポンプ	1基	土のう用止め杭	460本	緊急用土のう袋	250枚
のこぎり	6丁	防水シート	68枚	ロープ	400M
カケヤ	10丁	大ハンマー	5丁		

▼消防相互応援協定▼

消防相互応援協定は、消防組織法第39条の規定に基づき、大災害等が発生した際に相互の消防力を補い、被害の軽減を図っています。

この協定は、全国、県下、隣接市町などで締結され、航空応援・特別応援・通常応援等に区分されています。

《応援出場状況》

(平成22年中)

応援市町	区分	合計		小田原市		大磯町		中井町		その他	
		応援	受援	応援	受援	応援	受援	応援	受援	応援	受援
出場回数	火災出場	6	2	1		5	2				
	救急出場	16	15	7		9	15				
	救助出動										

被災市町からの要請が無い場合でも、互いに協力し出場する区域は次のとおりです。

《通常応援出場区域》

二宮町	平塚市
平塚市のうち土屋	二宮町のうち一色

二宮町	小田原市
小田原市のうち小竹(中村川以東) ・川匂・山西・東ヶ岡・中村原・羽根尾	二宮町のうち一色(主要地方道秦野・二宮線以西) ・百合が丘・山西・川匂

二宮町	大磯町
大磯町全域	二宮町全域

二宮町	足柄消防組合
中井町井ノ口地区の県道南金目・中井線以南	二宮町のうち小田原・厚木道路以北

《通常応援出場区域（自動車専用道路受持区域）》

二宮町	小田原市
小田原・厚木道路のうち、二宮インターから小田原料金所までの区間の下り線。 西湘バパスのうち二宮インターから国府津インターまでの区間の下り線。	小田原・厚木道路のうち、小田原料金所から二宮インターまでの区間の上り線。 西湘バパスのうち国府津インターから二宮インターまでの区間の上り線。

二宮町	大磯町
小田原・厚木道路のうち、二宮インターから大磯インターまでの区間の上り線。 西湘バパスのうち二宮インターから大磯西インターまでの区間の上り線。	小田原・厚木道路のうち、大磯インターから二宮インターまでの区間の下り線。 西湘バパスのうち大磯西インターから二宮インターまでの区間の下り線。

◇ 消防水利 ◇

二宮町内の消防水利は水資源の関係から、大部分が消火栓で充足されていますが、市街地周辺部は水道管口径が細いため水利が不足しています。このため水利不足地域の解消と、震災時の水利確保を図るため防火水槽を設置し、充実確保に努めています。

▼消防水利の現勢調▼

(平成23年4月1日現在)

種別 区分	水利	消火栓			防火水槽			その他	
	合計	小計	公設	私設	小計	公設	私設	プール	濠池等
基準数	409								
適合水利	357	301	300	1	56	53	3		
充足率	87.3%								
現有数	445	372	371	1	71	68	3	2	

(注) 適合水利とは、消防水利の基準に適合した施設数

消火栓は、直径150ミリメートル以上の管口径に取り付けられたものがふさわしく、また防火水槽についても常に40トン以上貯水されたものが消防水利として適しています。

(注) 現有数とは、消防水利の基準にかかわらず全部の施設数

◇ 気 象 ◇

気象観測は火災の予防、消防活動や降雨等による災害防止対策の面からも被害発生軽減のため重要な役割を果たしています。火災は気象条件と密接な関係を持ち、気象条件により火災の規模も大きく異なり出火率も大きく左右されています。

また、災害出動中はさらに常に気象条件を考慮して活動に臨まねばならないため気象観測装置による観測を実施しています。

▼ 月別気象状況 ▼

(平成22年度)

種別 月別	気温 (°C)			湿度 (%)			風速 (m/s)		天候				降水 日数	最 多 風 向	降 水 総 量 (mm)
	最 高	最 低	平 均	最 高	最 低	平 均	最 大	平 均	晴	曇	雨	雪			
4月	22.4	2.8	14.0	98.1	27.6	65.1	17.3	2.4	11	12	7	0	15	南東	283.0
5月	28.2	7.8	20.1	97.2	34.5	60.5	12.0	2.3	16	12	3	0	15	南東	139.0
6月	31.4	11.5	24.6	96.3	37.3	67.6	12.3	1.9	11	17	2	0	15	南南東	144.0
7月	33.4	20.7	26.8	97.3	53.4	70.9	16.4	2.1	17	12	2	0	11	南東	143.0
8月	34.4	22.4	29.9	89.7	54.2	70.1	10.4	2.6	25	6	0	0	4	南南東	46.5
9月	35.4	15.3	25.2	97.8	26.2	62.8	18.2	2.3	17	8	5	0	12	南南東	409.5
10月	27.3	9.7	20.5	97.2	36.6	64.9	18.0	2.3	11	16	4	0	11	東	215.5
11月	22.0	2.7	16.1	98.2	25.0	53.1	13.6	2.0	20	9	1	0	7	東	71.0
12月	23.3	-1.4	12.4	98.8	21.2	47.4	17.0	2.3	24	6	1	0	8	南東	199.5
1月	14.4	-4.9	7.6	63.4	17.7	42.4	12.2	2.2	27	4	0	0	0	南南東	0.0
2月	21.6	-4.0	8.9	96.7	25.9	50.3	15.7	2.4	14	11	2	1	11	東	127.5
3月	19.6	-2.6	10.1	95.8	18.7	48.0	18.2	2.7	21	7	3	0	9	南東	94.0
平均	26.1	6.7	18.0	93.9	31.5	58.6	15.1	2.3	18	10	3	0	10	南東	156.0
合計									214	120	30	1	118		1,872.5

注記 : 気温、湿度、風速の平均値は正午観測値より算出のもの。

▼ 横浜地方気象台予報等発表状況等調 ▼

種 別	月 別												
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大雨注意報	68	3	3	12	7	3	24	5	3	5		3	
洪水注意報	50	3		8	7	3	16	4	3	3		3	
強風注意報	321	23	18	23	47	12	36	19	22	47	16	25	33
波浪注意報	126	14	6	16	16	5	7	8	10	25	1	7	11
雷注意報	219	6	17	24	62	33	40	11	7	11		3	5
乾燥注意報	151	6	9						6	33	54	11	32
濃霧注意報	28	3	4	10	2	4	1			1		2	1
低温注意報	30										18	3	9
大雪注意報	4											4	
着雪注意報	4											4	
風雪注意報	4											3	1
霜注意報	8	6											2
大雨警報	15	2					9	2		2			
洪水警報	14	1					8	2		3			
波浪警報	5							5					
暴風警報	2							2					
火災予防に関する気象通報	168	7	13	3	1	5	3	2	10	36	35	22	31
高温に関する異常天候早期警戒情報	21		2	2	1	6	2	3	2	1	1	1	
津波情報	20									20			
台風に関する情報	20					5	9	6					
大雨と雷及び突風に関する情報	20	1			6	2	5			4		2	
高温に関する情報	19				7	7	5						

▼ 過去5年間の気象 ▼

区 分		平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
1日平均風速(m/s)		2.2	2.2	2.2	2.2	2.3
最多風向		南南東	南南東	南南東	南南東	南東
降水量(mm)		1500.0	1467.0	2044.0	1642.0	1872.5
平均気温(℃)		18.3	18.0	18.1	17.9	18.0
平均湿度(%)		59.5	73.8	57.2	61.0	58.6
天 気 日 数	晴	176	192	176	180	214
	曇	153	143	152	146	120
	雨	36	30	37	39	30
	雪	0	0	0	0	1

注記：正午観測値より算出したもの

二 宮 町 消 防 年 報

平成 23年 9月 発 行

編 集 発 行 二 宮 町 消 防 本 部

〒259-0131 神奈川県中郡二宮町中里711-1

TEL(0463)72-0015(代)

FAX(0463)72-0117